



## 主な意見交換

今回は、「水辺づくり(グラウンドワーク)について」「学校との関わりと活動支援について」「さららを拠点とした市民団体の支援について」などを議題に、活発な意見交換が行われました。



協議会の座長を務める加藤さん

### 水辺づくり(グラウンドワーク)について

- 現在の永山新川では、直接水に触れる利用はされていないので、今後は直接水に触れられる施設を整備していきたい。
- しかし、今夏行った水質検査によって大腸菌が多いことがわかったため、それをどうするかが課題。
- 例えば、水遊びエリアに湧き水や地下水などを引き込み、利用することも考えられる。
- 水質の問題が大腸菌だけであれば、水質改善を行うなど、安全基準をクリアする策があるのではないか。
- 整備することだけにこだわらず、良い利用方法を前向きに検討し、水にふれあう環境を整えていくことも大切なのでは。

### 学校との関わりと活動支援について

- 永山東小学校は、徒歩10分以内で永山新川に来られる距離にある。また、3・4年生105時間、5・6年生110時間の総合学習のうち、新川探検、昆虫採集、野鳥観察、水質調査などで各学年とも25時間もの利用をしており、永山新川がなければ総合学習が成り立たない



「水質の安全基準をクリアする策があるのでは」と語る児童クラブ ホロホロ代表の谷地元さん



総合学習について語る、永山東小学校の皆川校長

ほどである。

- 今後は、専門的な指導者や、川遊びを管理・監視してくれる人を置いてほしい。
- 管理人、監視人がいることで、子どもたちが放課後や土日、夏休みなどに魚つりや水遊びに来て、安心できる。
- 宿泊・自然体験学習を永山新川で実施できれば、効率の良い自然学習ができるが、そのような利用はできないものだろうか？

### 「さらら」を拠点とした「市民団体」の支援について

- 参加・協力団体を募集するポスターとチラシをつくり、年間を通して協力してくれる団体を募っていききたい。
- 個人の方にもどンドン応募してもらい、植物のプロ、魚釣り名人など「子どもの水辺人材バンク」のような登録も良いのでは。
- ポスターとチラシは、「さらら」館内はもちろん、協議会委員の事務所や、公共施設などで掲示・配布を行う。
- 町内会に回覧板を回して反応を見てはどうだろう。
- 「さらら」などで記録上映(スライドショー)などの集いを実施するのも良い方法だ。
- 市民の方々との交流を進める機会が大切なので、「秋の永山新川まつり」に「ながやま子どもの水辺」のブースをつくりPRしてみたい。
- 子どもたちの安全サポートができる人材がNPOの中にもいるので、今後ぜひお手伝いしたい。
- 「さらら」では、10月9日に「永山新川源流探検」を実施する。この中では、水質検査をしながら上流に向かって永山新川を探検していくが、子どもたちにとっては、上流の人々と交流し、水質汚染の原因を知って改善点などを考える良い機会だと思う。



水辺づくりの素案について説明する旭川河川事務所の中田係長



「川の日ワークショップ・全国大会」の参加を報告する佐藤さん

### ワークショップの開催について

- 「NPO法人 水と緑のふるさと永山を育てる会」は、7月に「川の日ワークショップ・全国大会(名古屋開催)」に参加し、全国的・全道的な水辺活動の盛り上がりを実感した。来年度以降は、全道大会にも参加していきたいと考えている。

「川の日ワークショップ・全国大会」のプレゼンテーションで使用したパネル

- 2007年に旭川で「川の日ワークショップ全道大会」が開催される予定なので、「ながやま子どもの水辺」としても参加していきたい。
- その準備として、協議会を「ながやま子どもの水辺ワークショップ」として開催してみてもどうだろうか。

### 子どもの水辺サポートセンターから登録団体への支援や活動ポイントについてアドバイスをいただきました!

#### ●サポートセンターの支援制度について

さまざまな講師の派遣紹介や資料の貸し出し、助成基金など、いろいろなネットワークや制度があるので、必要に応じて有効的に活用すると良いでしょう。

#### ●総合学習を利用した展開について

「子どもの水辺」を学校と地域が協力しあい学校の総合学習に利用できる場として取り入れていくことで、低学年から高学年まで一貫した環境学習が図れるでしょう。

#### ●子どもたちの自主性を育てるしくみについて

それぞれのレベルに対応した川のリーダー認定システムなどを利用し、活動の成果を学校や社会が認知する仕組みをつくることで、自主的な活動の励みにもつながるでしょう。